

# Rinnai

証券コード 5947

リンナイ株主通信

第25号

第57期中間事業報告書

平成18年4月1日～平成18年9月30日



<http://www.rinnai.co.jp/>



## キッチンが変わる、暮らしが変わる 大好評 Rinnai ECO Clean シリーズ

### *Stylish*

#### スタイリッシュ

トッププレートにドイツ・ショット社製耐熱セラミックガラス(商品名:セランガラス)を採用。美しいディテールを備え、熱や衝撃に強く、ワンランク上のグレード感を実現しました。

### *Safety*

#### セーフティ

「コンロ消し忘れタイマー」と「天ぷら油過熱防止装置」をすべての商品に標準搭載しました。

### *Economy & Ecology*

#### エコノミー&エコロジー

新外炎バーナーは、4.20kW(3,610kcal/h)の出力で5.35kW(4,600kcal/h)相当の加熱性能を実現しました。また、バーナー中央部に炎口を採用し、鍋をムラなく加熱して理想的な熱分布と効率のよい加熱を実現したバーナーです。



## 株主の皆さまへ



代表取締役会長 内藤 進



代表取締役社長 内藤 弘康

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当社第57期中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）における営業ならびに決算の概況をご説明申し上げます。

当中間期における国内経済は、個人消費の伸びが鈍化傾向にあるものの、景気は民間需要に支えられ引き続き拡大を続けました。当業界では、新設住宅着工戸数は底堅く推移いたしました。電化攻勢が勢いを増すなか、住宅設備市場における競争は一層厳しさを強めております。

このような状況のもとで、当社グループは平成18年度を初年度とする中期経営計画「Vシフトプラン」を策定し、重点改革を柱に3年で体質転換を図る取り組みをスタートいたしました。そして、お客さまに快適な暮らしを提供することを使命とし、安全・安心・快適性の実現に向けた商品戦略、販売戦略を推し進めるとともに、総合熱エネルギー機器メーカーとして高度な熱利用技術と環境技術の強化に取り組んでまいりました。この結果、国内では堅調な住宅需要と高付加価値商品戦略の効果もあり、増収を確保いたしました。また海外においても、順調な業容の拡大と円安効果があり、好調に推移いたしました。

損益面では、素材価格の急激な高騰を受け、コスト低減努力や商品の小売価格改定を実施いたしました。材料費高を十分に吸収するまでには至らず、特に国内においては厳しい状況を強いられました。一方、海外では増収効果に伴う利益増が後押しとなりました。

この結果、当上期の実績につきましては、後記のとおりとなりました。

なお、中間配当金につきましては、配当性向、株主資本利益率、財務状況などを総合的に勘案のうえ、前中間期と同じく1株につき14円とさせていただきます。

今後の見通しにつきましては、市場の先行きには不安定要素も多く、楽観はできない状況が続くものと思われませんが、中期経営計画の達成に向け、引き続き重点改革課題を推進してまいります。さらに、市場環境の変化に対応した新たな体制づくりとして、安全・安心を最重要とする方針のもと、商品の全ライフサイクルにおいてお客さまをサポートする体制づくりや商品の供給体制の強化、より高度なIT技術利用によるお客さまとの連携強化など、諸施策を展開してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年12月

代表取締役会長

代表取締役社長

内藤 進

内藤 弘康

## “安全・安心”を追求するリンナイ



当社は創業以来、「品質こそ我らが命」をテーマに何よりもガス機器を安全にお使いいただくための努力を重ねてまいりました。ここでは、当社製品の安全性確保に向けたさまざまな取り組みをご紹介します。

### 安全性確保に向けた標準装備

暮らしのなかで起こり得るさまざまな事故を想定し、当社の給湯機器には以下の安全装置を標準装備しています。

- ・ 不完全燃焼防止装置
- ・ 空焚き防止装置
- ・ 停電安全装置
- ・ 過熱防止装置
- ・ 沸騰防止装置
- ・ 漏電安全装置



精密な制御機能を守るため、電気回路部分には雨・風・虫を防ぐように、ウレタン樹脂でモールドしています。

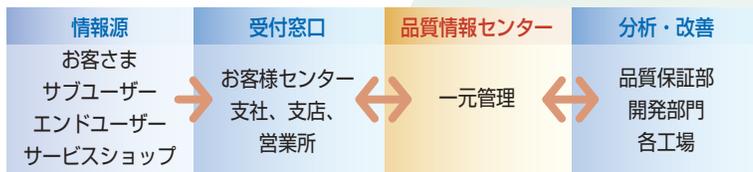


ガス機器が安全かつ安定した性能を発揮するために最も重要となるのは制御技術です。リンナイは世界有数の制御技術を誇り、また、機器に使われる電子基盤等の部品についてもすべてグループ会社で内製化することにより、高い品質を維持しています。



### “安全・安心”を追求する リンナイ品質情報センター

品質情報(QI)センターでは、品質・サービス情報の収集と対応に努め、品質向上に役立っています。



## 徹底した性能試験

ガス給湯機器は屋外に設置される場合も多く、雨風や気温の変化などさまざまな環境変化にさらされます。技術センターでは、新製品はもちろん既存製品についても、随時、各種試験を行っています。

## お客さまへの情報提供

当社のサイトでは、安全にお使いいただくための工夫や、製品についてのよくあるご質問に対する答えなどをまとめて掲載しています。



## ○耐風試験室

この装置では最大風速30m/秒での耐風試験を行っています。リンナイの給湯器はJIS規格における耐風性能基準である風速15m/秒を上回る風速20m/秒でも耐え得るよう標準設計していますが、最近は高層住宅が増え、ますます強風に対応できる機器の開発が望まれています。そのため、リンナイでは高層マンションには風速30m/秒までの耐風性能を持つよう設計した給湯器を設置しています。



## ○水コントロール室

主に、給湯器に使用する水の制御要素についての評価試験を行っています。

## ○環境試験室

室内の気温を-10℃から+40℃、かつ湿度に関してもコントロールできる環境試験室のなかに家が2軒建てられ、空調機器の体感性能試験を行っています。



## ○散水試験

多方向からの雨、豪雨にも耐え得る信頼性の高い商品づくりを推進しています。



## eビジネス戦略

お客さまとダイレクトにつながる  
販売サイトをトライアルオープン

当社はマーケティングの可能性を広げるために、インターネットを活用したeビジネス戦略を推進しています。その一環として、お手入れ品・消耗部品の販売サイト「R.STYLE」を平成18年10月1日からトライアルオープンしました。また、当社は同時に、潜在的なお客さまとの交流・情報交換を目的としたコミュニティサイト「Sketch」および既存の流通販売店を支援する「R:PLUS」の2つのサイトも試験的に開始しています。今回のサイトオープンを通じてユーザーや販売店からのご意見やご要望を集めて改良を重ね、将来的な本格稼働へとつなげてまいります。

お手入れ品・消耗部品の販売サイト「R.STYLE」  
<http://www.rinnai-style.jp/>



コミュニティサイト「Sketch」  
<http://www.sketch-life.jp/>



## 新商品

## スタイリッシュ&amp;パワフル！

## 「音声メッセージ機能」を搭載したガスファンヒーター新登場

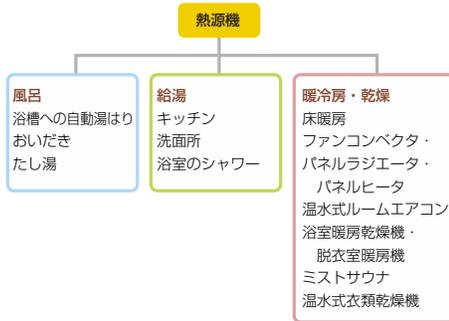
当社は平成18年8月1日より、スタイリッシュなメタル調フロントデザインのガスファンヒーター RC-F4003Nを発売しました。広い部屋（11～15畳）にも対応できる強力な暖房能力（35号・4.07kW<3,500kcal/h>）に加え、新機能として運転開始や安全装置の作動等を知らせる「音声メッセージ機能」と、電源コンセントを抜いても時計の現在時刻をキープする「8時間時計バックアップ機能」を搭載しました。設定温度で機器本体が燃焼のオン・オフを自動的にコントロールする「オートおさえめ運転」などの便利機能、連続燃焼が8時間になると運転を停止する「8時間自動消火機能」など、セーフティ機能も充実しています。どなたにも扱いやすい機能とデザインで、お洒落なりビングや寝室におすすめのファンヒーターです。



RC-F4003N

## システム商品

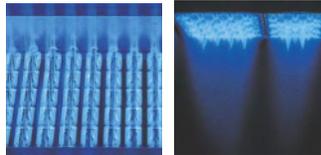
1台の熱源機が、  
家中の給湯、暖房を管理



当社のガス給湯暖房システムは、1台の熱源機で給湯やお風呂はもちろん、床暖房、浴室暖房乾燥などの温水を利用した暖房まで管理できる、快適な住まいのトータルシステムです。今や、ガス機器は1年を通じて、快適な住まいにとって重要な役割を果たしています。また、厨房分野では、いかに快適なキッチンスペースを実現するかをテーマに、ハウスメーカーやシステムキッチンメーカーなどとの共同開発、連携を重視し、主要メーカーに多くの商品を供給しています。

## 研究・技術開発力

ガス機器に不可欠な  
ガス制御・燃焼技術をはじめ、  
各種先端技術を駆使



低NOxバーナー

環境に配慮した商品開発も当社の重要テーマの一つです。

当社は、「熱」を通じて「快適な暮らし」を社会に提供しているため、ガス制御・燃焼技術および電子技術、センサー・ソフト技術、IT・通信技術の応用等の先端要素技術を核として、誰もが安心して安全にお使いいただける、省エネ・省資源・リサイクル等を追求した環境配慮型熱機器の研究開発を進めています。

## 部門別売上高の概要

### ● 厨房機器

国内では、電化攻勢の影響もあり、ビルトインコンロは前年同期並みでしたが、安全性および清掃性に優れた商品を市場に投入したことにより、テーブルコンロが大幅に伸長しました。また、操作性に優れた食器洗乾燥機も好調でした。海外では、韓国をはじめ東南アジア各国において好調に推移しました。この結果、厨房機器全体の売上高は前年同期比14.8%の増加となりました。

### ● 給湯機器

国内では、省エネ性に優れた高効率給湯器「エコジョーズ」のラインアップの充実やミストサウナ付浴室暖房乾燥機・浴室テレビ等のオプション品の充実により、好調に推移しました。海外では、アメリカが瞬間式給湯市場の拡大を背景に伸長し、中国でも中国産ボイラーが伸びています。また、その他の各国においても前年同期を上回りました。この結果、給湯機器全体の売上高は前年同期比16.5%の増加となりました。

### ● 空調機器

国内では、「音声メッセージ」の新機能を搭載したデザイン性に優れたガスファンヒーターが順調に推移し、売上が増加しました。海外では、オセアニアにおいて寒波の影響を受けFF暖房機が好調でした。この結果、空調機器全体の売上高は前年同期比7.8%の増加となりました。

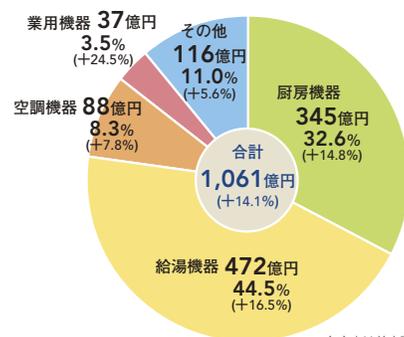
### ● 業用機器

国内では前年同期並みでしたが、海外ではオーストラリアで業用給湯器が伸長し、韓国で業用オープンの新製品販売が寄与しました。この結果、業用機器全体の売上高は前年同期比24.5%の増加となりました。

### ● その他

国内、海外とも各種部材販売が増加したことや、ガス機器のシステム商品化による設置施工売上が増加したこともあり、売上高は前年同期比5.6%の増加となりました。

## 部門別売上高



( )内は前中間期比の増減率です。

## 損益の概要

### ● 営業利益

国内では、素材価格が前期に続き高騰し、第1四半期は大変厳しい状況でした。この状況を打開するため各種コストダウンを重ねましたが、努力の限界があり、平成18年7月に商品の小売価格改定を実施しました。海外では、アメリカをはじめ各社が給湯機器を中心とした商品の拡販により増収となり、大幅な増益を計上しました。この結果、連結営業利益は前年同期比28.0%の増加となりました。

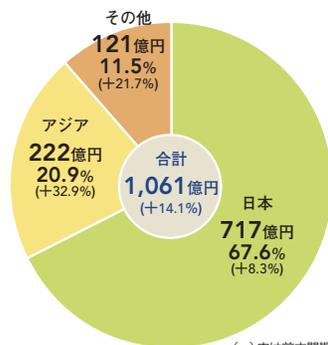
### ● 経常利益

前年同期に比べ為替評価益が減少したこともあり、連結経常利益は前年同期比17.0%の増加でした。

### ● 中間純利益

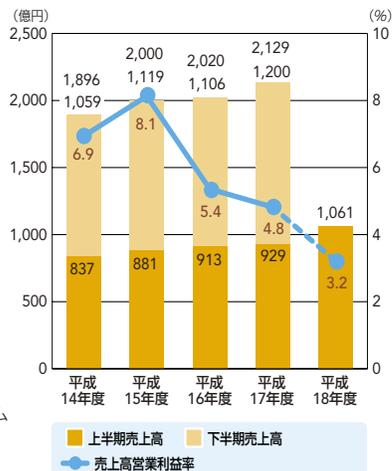
前年同期は国内において給湯暖房機の自主点検費用を特別損失に計上したことにより純利益を悪化させました。当中間期はこうした特別計上がないことを主因として、中間純利益が前年同期比72.6%の増加となりました。

## 地域別売上高



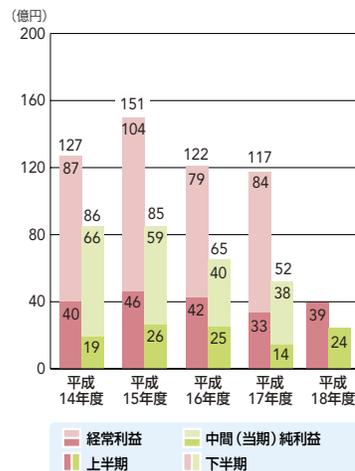
アジア：韓国、中国、台湾、タイ、シンガポール、ベトナム  
 その他：オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ  
 注：内部売上高を除いています。

## 売上高、 売上高営業利益率

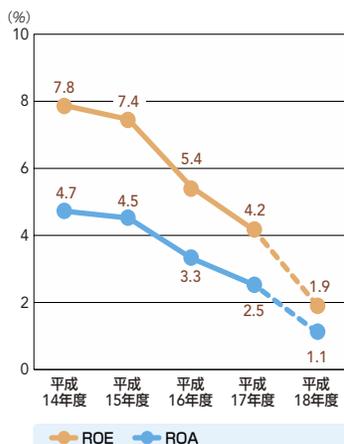


注：平成18年度は、中間決算の売上高営業利益率です。

## 経常利益、 中間(当期)純利益

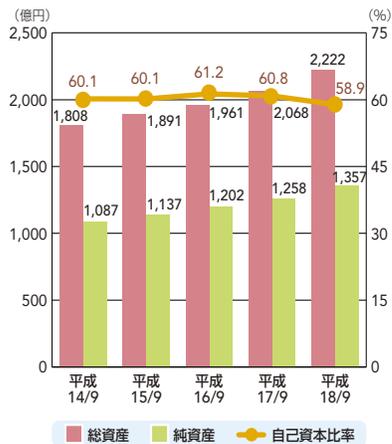


## ROE、ROA



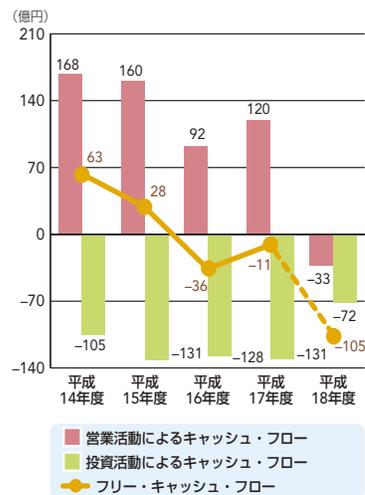
注：平成18年度は、中間決算の数値を表示していません。

## 総資産、純資産、 自己資本比率



注：1. 平成14/9から平成17/9までは資本の部合計、会社法の施行に伴い平成18/9からは純資産の部合計の数値を表示しています。  
 2. 自己資本比率について、平成18/9からは純資産から少数株主持分を控除した数値を用いて計算しています。

## フリー・ キャッシュ・フロー



注：1. フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー  
 2. 平成18年度は中間決算のフリー・キャッシュ・フローです。

## 中間連結貸借対照表 (単位：百万円)

当中間期 (平成18年9月30日現在)  
前中間期 (平成17年9月30日現在)

	当中間期	前中間期		当中間期	前中間期
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>135,814</b>	<b>124,400</b>	<b>流動負債</b>	<b>75,198</b>	<b>64,628</b>
現金及び預金	19,465	17,336	支払手形及び買掛金	44,010	37,137
受取手形及び売掛金	68,911	58,357	短期借入金	15,686	12,357
有価証券	14,351	15,803	未払金	7,814	7,148
たな卸資産	30,416	27,607	未払消費税等	210	200
繰延税金資産	2,366	2,561	未払法人税等	1,792	1,430
その他	1,991	3,388	賞与引当金	2,590	2,319
貸倒引当金	△1,687	△655	その他	3,094	4,035
<b>固定資産</b>	<b>86,466</b>	<b>82,498</b>	<b>固定負債</b>	<b>11,379</b>	<b>12,120</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>44,961</b>	<b>43,698</b>	長期借入金	5,932	6,367
建物及び構築物	14,792	14,896	繰延税金負債	2	2
機械装置及び運搬具	9,167	8,820	退職給付引当金	2,943	3,036
工具器具及び備品	6,874	6,945	役員退職慰労金引当金	1,417	1,700
土地	13,062	11,975	その他	1,083	1,013
建設仮勘定	1,064	1,060	<b>負債合計</b>	<b>86,577</b>	<b>76,749</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>1,098</b>	<b>892</b>	<b>少数株主持分</b>		
<b>投資その他の資産</b>	<b>40,405</b>	<b>37,908</b>	少数株主持分	—	4,286
投資有価証券	29,273	25,919	<b>資本の部</b>		
出資金	608	440	資本金	—	6,459
長期貸付金	14	20	資本剰余金	—	8,719
繰延税金資産	2,401	2,417	利益剰余金	—	109,851
その他	8,802	9,527	その他有価証券評価差額金	—	994
貸倒引当金	△694	△417	為替換算調整勘定	—	△76
			自己株式	—	△85
			<b>資本合計</b>	—	<b>125,862</b>
			<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	—	<b>206,899</b>
			<b>純資産の部</b>		
			<b>株主資本</b>		
			資本金	6,459	—
			資本剰余金	8,719	—
			利益剰余金	115,038	—
			自己株式	△99	—
			<b>株主資本合計</b>	<b>130,117</b>	—
			<b>評価・換算差額等</b>		
			その他有価証券評価差額金	466	—
			為替換算調整勘定	337	—
			<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>804</b>	—
			<b>少数株主持分</b>	<b>4,781</b>	—
			<b>純資産合計</b>	<b>135,703</b>	—
<b>資産合計</b>	<b>222,280</b>	<b>206,899</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>222,280</b>	—

## 中間連結損益計算書 (単位：百万円)

当中間期 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)  
前中間期 (平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

	当中間期	前中間期
売上高	106,102	92,968
売上原価	77,908	68,410
売上総利益	28,194	24,557
販売費及び一般管理費	24,831	21,930
<b>営業利益</b>	<b>3,362</b>	<b>2,627</b>
営業外収益	1,148	1,253
営業外費用	595	534
<b>経常利益</b>	<b>3,915</b>	<b>3,346</b>
特別利益	311	575
特別損失	168	1,344
税金等調整前中間純利益	4,058	2,577
法人税、住民税及び事業税	2,052	1,667
法人税等調整額	△183	△313
少数株主損失(△)	△255	△193
<b>中間純利益</b>	<b>2,445</b>	<b>1,416</b>

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

当中間期 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)  
前中間期 (平成17年4月1日から平成17年9月30日まで)

	当中間期	前中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,315	△2,718
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,269	△7,754
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,699	4,065
現金及び現金同等物の中間期末残高	25,853	26,813

## 中間連結株主資本等変動計算書 (単位：百万円)

当中間期 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

	株主資本				株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	
平成18年3月31日残高	6,459	8,719	112,918	△94	128,002
<b>中間連結会計期間中の変動額</b>					
剰余金の配当	—	—	△758	—	△758
利益処分による役員賞与	—	—	△2	—	△2
中間純利益	—	—	2,445	—	2,445
自己株式の取得	—	—	—	△5	△5
自己株式の処分	—	0	—	0	0
新規連結に伴う増加額	—	—	438	—	438
その他	—	—	△2	—	△2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—
<b>中間連結会計期間中の変動額合計</b>	<b>—</b>	<b>0</b>	<b>2,119</b>	<b>△4</b>	<b>2,115</b>
平成18年9月30日残高	6,459	8,719	115,038	△99	130,117

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	656	838	1,494	4,661	134,159
<b>中間連結会計期間中の変動額</b>					
剰余金の配当	—	—	—	—	△758
利益処分による役員賞与	—	—	—	—	△2
中間純利益	—	—	—	—	2,445
自己株式の取得	—	—	—	—	△5
自己株式の処分	—	—	—	—	0
新規連結に伴う増加額	—	—	—	—	438
その他	—	—	—	—	△2
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額 (純額)	△189	△501	△690	119	△570
<b>中間連結会計期間中の変動額合計</b>	<b>△189</b>	<b>△501</b>	<b>△690</b>	<b>119</b>	<b>1,544</b>
平成18年9月30日残高	466	337	804	4,781	135,703

## グローバルネットワーク

平成18年9月末現在、当社グループは、当社（リンナイ株式会社）および子会社43社（国内22社、海外21社）、ならびに関連会社4社（海外4社）、計48社で構成されています。



## 国内子会社

## 製品の製造

- (株) 柳澤製作所
- リンナイテクニカ (株)

## 部品の製造

- アール・ビー・コントロールズ (株)
- リンナイ精機 (株)
- アール・ティ・エンジニアリング (株)
- ジャパンセラミックス (株)
- テクノパーツ (株)
- 能登テック (株)
- アール・ビーテクノ (株)

## 製品の販売

- リンナイネット (株)
- アール・ジー (株)

## 製品の販売および設置施工

- リンナイテック札幌 (株)
- リンナイテック東京 (株)
- リンナイテック中部 (株)
- リンナイテック広島 (株)
- 九州ガス燃料 (株)
- リンナイテック東北 (株)
- リンナイテック新潟 (株)
- リンナイテック近畿 (株)
- リンナイテック九州 (株)

## その他の事業

- リンナイ企業 (株)
- リンナイテック北陸 (株)

- 連結子会社
- 非連結子会社
- 持分法適用関連会社
- 持分法非適用関連会社

## 海外子会社・関連会社

## 持株会社および製品の販売

- リンナイホールディングス(パシフィック) (株)

## 製品の販売

- リンナイオーストラリア (株)
- 林内香港有限公司
- 広州林内燃具電器有限公司
- リンナイアメリカ (株)
- リンナイUK (株)

## 製品の製造販売

- リンナイニュージーランド (株)
- リンナイコリア (株)
- リンナイタイ (株)
- リンナイインドネシア (株)
- リンナイマレーシア (株)
- 広州名海燃具電器有限公司
- 台湾林内工業股份有限公司
- 上海林内有限公司
- リンナイベトナム (株)
- 伯陶リンナイ機器 (有)
- 上海林博熱能技術有限公司

## 部品の製造販売

- アール・ビー・コリア (株)
- 上海燃宝控制器有限公司
- 三国PK精密 (株)
- アール・エス・コリア (株)
- ラニーR・K精密 (株)

## その他の事業

- リンナイサービス (MS) (株)
- リンナイシンガポール (株)
- リンナイSM (株)

## 会社データ

### 会社概要 (平成18年9月30日現在)

創 業 大正9年9月1日  
設 立 昭和25年9月2日  
資 本 金 6,459,746,974円  
本 社 〒454-0802 名古屋市中川区福住町2-26  
TEL 052-361-8211 (代表)  
従業員数 3,132名

### 国内ネットワーク (平成18年9月30日現在)

#### 工場・センター

大口工場、瀬戸工場、旭工場、愛知工場、部品センター

#### 研究所

技術センター

#### 支社

東北、関東、中部、関西、九州

#### 支店

札幌、仙台、新潟、東京、北関東、東関東、南関東、  
静岡、名古屋、大阪、京滋、広島、高松、福岡

#### 営業所・出張所等

北見、釧路、帯広、旭川、函館、青森、八戸、秋田、  
盛岡、弘前、山形、酒田、郡山、いわき、福島、上越、  
新潟、長岡、水戸、土浦、千葉、松戸、多摩、宇都宮、  
埼玉、所沢、越谷、熊谷、高崎、太田、東京、横浜、  
厚木、横浜北、山梨、沼津、浜松、長野、松本、上田、  
富山、金沢、福井、豊橋、岡崎、愛知、東濃、岐阜、  
三重、四日市、滋賀、奈良、和歌山、田辺、京都、  
福知山、神戸、姫路、岡山、鳥取、米子、広島、福山、  
山口、下関、高松、松山、高知、徳島、北九州、佐賀、  
長崎、佐世保、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

### 役員 (平成18年9月30日現在)

代表取締役会長	内藤 進
代表取締役副会長	林 謙治
代表取締役社長*	内藤 弘康
取締役 専務執行役員	成田 常則
取締役 常務執行役員	増岡 鋼造
取締役 常務執行役員	宮田 務
執行役員	長坂 隆
執行役員	岩田 武四
執行役員	小杉 将夫
執行役員	北川 智彦
執行役員	佐々木 静夫
執行役員	祢津 忠信
執行役員	近藤 雄二
執行役員	小澤 敏典
執行役員	吉村 定夫
執行役員	飯島 正幸
執行役員	吉田 雄三
執行役員	藺田 享志
執行役員	進士 克彦
執行役員	バーナード エリカ
監査役(常勤)	和里田 勝弘
監査役(常勤)	後藤 靖彦
監査役	矢崎 健
監査役	福井 清晃

(注) 1. \*印は執行役員を兼務しております。

2. 監査役の矢崎健、福井清晃は、社外監査役であります。

# 株式の状況 (平成18年9月30日現在)

## 株式構成

### 株式の総数

#### 発行する株式の総数

200,000,000株

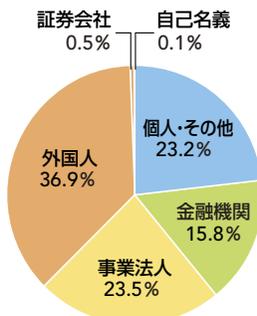
#### 発行済株式数

54,216,463株

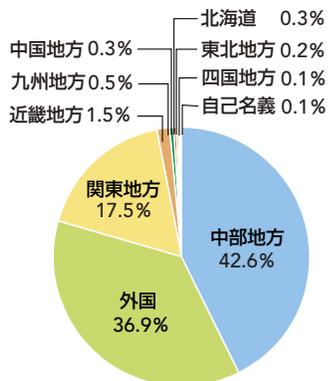
#### 株主数

4,101名

### 所有者別株式分布



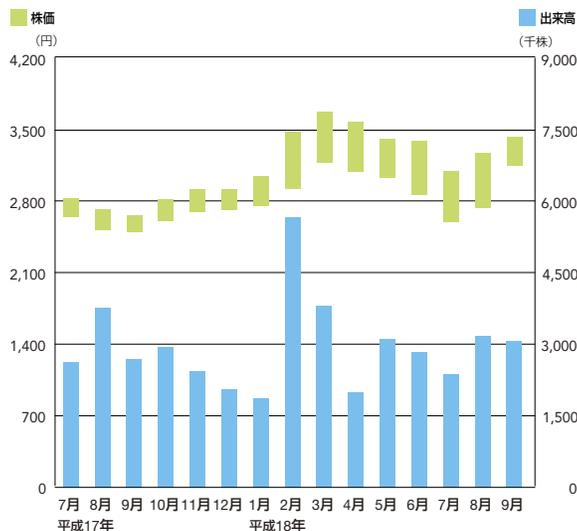
### 地域別株式所有分布



## 大株主

株主名	持株数(千株)
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) サブアカウント アメリカン クライアント	7,720
内藤株式会社	5,415
株式会社好兼商事	4,002
ドイツェバンク アーゲー フランクフルト	3,530
内藤 進	2,677
林 謙治	2,652
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,726
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,085
内藤紀子	1,020
メロンバンク エヌエー アズ エージェント フォー イツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ペンション	1,005

## 株価の推移



## 株主メモ

### 事業年度末日

毎年3月31日

剰余金の配当は毎年9月30日、3月31日現在の株主に  
行います。

### 単元株式数

100株

### 公告掲載新聞

日本経済新聞

### 株主名簿管理人

中央三井信託銀行株式会社

〒105-8574 東京都港区芝3-33-1

### 同事務取扱場所

中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部

〒460-8685 名古屋市中区栄3-15-33

フリーダイヤル 0120-78-2031

### 同取次所

中央三井信託銀行株式会社 本店および全国各支店

日本証券代行株式会社 本店および全国各支店

### ●お知らせ

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求および  
配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は株主名簿管理  
人のフリーダイヤル 0120-87-2031で24時間受付  
しております。

### 株式の上場

東京および名古屋証券取引所 市場第1部

## 当社ホームページのご紹介

### ● IR情報

[http://www.rinnai.co.jp/ir/main\\_ir.html](http://www.rinnai.co.jp/ir/main_ir.html)

株主・投資家の皆さまへ最新財務データ、決算短信、  
株価データ等をご提供します。



**Rinnai**

リンナイ株式会社

〒454-0802 名古屋市中川区福住町2-26

TEL 052-361-8211

**r100** PRINTED WITH SOYINK

本報告書は、古紙配合率100%再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インキを使用しています。